

第 10 章 植 物

10-1	工事中		325
10-2	存在時		351

第 10 章 植 物

10-1 工事中

(1) 概 要

水面の埋立てによる陸生植物及び水生植物への影響について検討を行った。

(2) 調 査

既存資料及び現地調査により、現況の把握を行った。

ア 既存資料による調査

(ア) 調査事項

- ・ 陸生植物（植物相及び植生）

(イ) 調査方法

a 植物相

植物相の既存資料調査方法は、表 2-10-1 に示す方法により重要な種の生育情報を確認した。

表 2-10-1 重要な種の生育情報の確認方法（植物）

文献	抽出方法
レッドデータブックあいち 2020	「レッドデータブックあいち 2020」において、県内分布域が図 2-10-1 で網掛けしたメッシュに該当する種を抽出した。
名古屋市版レッドリスト 2020	「名古屋市版レッドリスト 2020」において分布域が「港区」または「南区」とされている種を抽出した。ただし、「名古屋市版レッドリスト 2020」において分布図が示されていない種については、「名古屋市版レッドリスト 2015」の分布図を参考に抽出した。

b 植 生

植生の調査方法は、「第 6 回・第 7 回自然環境保全基礎調査（植生調査）」（環境省ウェブサイト）のデータを基に現存植生図を作成した。

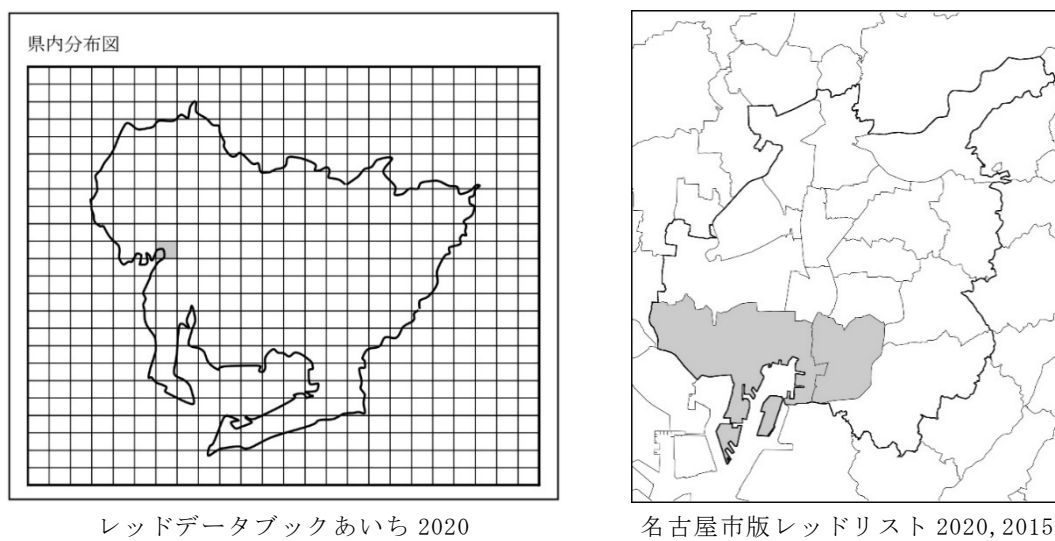


図 2-10-1 重要な種を抽出したメッシュ（植物）

(ウ) 調査結果

a 植物相

「名古屋市版レッドリスト 2020」または「レッドデータブックあいち 2020」のいずれかにおいて、調査地域及びその周辺で生育情報のある重要な種は、表 2-10-2 に示す 26 目 41 科 82 種であった。

b 植 生

「第 6 回・第 7 回自然環境保全基礎調査（植生調査）」（環境省ウェブサイト）において、調査地域及びその周辺の現存植生図は、図 2-10-2 に示すとおりである。

調査地域の大部分は市街地及び工場地帯であり、その他に路傍・空地雑草群落、緑の多い住宅地及び造成地等がみられる。

表 2-10-2(1) 事業予定地及びその周辺における重要な種（植物相）

No.	目名	科名	種名	名古屋市 RL2020	愛知県 RDB2020	環境省 RL2020
1	ゼニゴケ	ウキゴケ	ウキゴケ	NT	VU	
2	ウロコゴケ	クサリゴケ	マルバヒメクサリゴケ	VU	VU	
3	マツバラン	マツバラン	マツバラン		VU	NT
4	サンショウモ	サンショウモ	サンショウモ		CR	VU
5	ウラボシ	コパノイシカグマ	イシカグマ		NT	
6		メシダ	ウスバシケシダ		VU	VU
7	スイレン	スイレン	ヒメコウホネ		CR	VU
8	クスノキ	クスノキ	ニッケイ		国リスト	NT
9	オモダカ	オモダカ	アギナシ		国リスト	NT
10		トチカガミ	トチカガミ	EN	EN	NT
11			イトトリゲモ		NT	NT
12			オオトリゲモ		NT	
13			ミズオオバコ		国リスト	VU
14			コウガイモ	EX	VU	
15			セキショウモ	EX		
16		シバナ	シバナ	EN	NT	NT
17		ヒルムシロ	ヒルムシロ		NT	
18			リュウノヒゲモ		国リスト	NT
19	クサスギカズラ	ラン	エビネ		NT	NT
20			キンラン		NT	VU
21			カンラン		CR	EN
22			タシロラン		NT	NT
23			サギソウ		VU	NT
24	イネ	ホシクサ	シラタマホシクサ		VU	VU
25		イグサ	イヌイ		CR	
26		カヤツリグサ	イセウキヤガラ	EN		
27			ウマスゲ	CR		
28			シオクグ	NT		
29			オオシロガヤツリ		VU	
30			セイタカハライ		VU	
31			イソヤマテンツキ	VU		
32			ミカワシンジュガヤ		VU	VU
33		イネ	ヒメコヌカグサ		国リスト	NT
34			ヒメタイヌビエ		EN	
35			ウンヌケ		NT	VU
36			スズメノカタビラ（水田型）	NT		
37			ウキシバ		NT	
38	キンポウゲ	キンポウゲ	オキナグサ		CR	VU
39			ウマノアシガタ	VU		
40	ツゲ	ツゲ	ツゲ		VU	
41	ユキノシタ	スグリ	ヤブサンザシ		VU	
42		アリノトウグサ	オグラノフサモ	国リスト 県リスト	CR	VU
43	マメ	マメ	ハマエンドウ	VU		
44			イヌハギ		VU	VU
45			オオバクサフジ		NT	
46	バラ	グミ	アリマグミ		VU	
47		バラ	マメナシ		CR	EN
48	ウリ	ウリ	ゴキヅル	VU		
49	キントラノオ	ヤナギ	キヌヤナギ	VU	NT	
50	フトモモ	ミソハギ	エゾミソハギ		VU	
51			ミズスギナ		EX	CR
52			ミズマツバ		国リスト	VU
53		アカバナ	ウスゲチョウジタデ		国リスト	NT

表 2-10-2(2) 事業予定地及びその周辺における重要な種（植物相）

No.	目名	科名	種名	名古屋市 RL2020	愛知県 RDB2020	環境省 RL2020
54	アオイ	アオイ	ハマボウ	EX	VU	
55	アブラナ	アブラナ	ミズタガラシ		NT	
56			コイヌガラシ	VU	国リスト	NT
57	ナデシコ	タデ	サイコクヌカボ		NT	VU
58			ナガバノウナギツカミ		NT	NT
59			コミゾソバ		NT	
60			アキノミチヤナギ	VU		
61			コギシギシ	NT	国リスト	VU
62		ヒユ	ホソバハマアカザ	NT		
63			ハマアカザ	EX	VU	
64			マルバアカザ		NT	
65	ツツジ	サクラソウ	クサレダマ	EN		
66	リンドウ	キョウチクトウ	スズサイコ		国リスト	NT
67	シソ	オオバコ	オオアブノメ		VU	VU
68			トウオオバコ		EN	
69			イヌノフグリ	NT	国リスト	VU
70			カワヂシャ	国リスト	国リスト	NT
71		シソ	シマジタムラソウ		NT	VU
72			ミゾコウジュ		国リスト	NT
73		タヌキモ	イヌタヌキモ		国リスト	NT
74			ヒメミミカキグサ		EN	EN
75			ムラサキミミカキグサ		NT	NT
76	キク	キキョウ	キキョウ		VU	VU
77		ミツガシワ	ガガブタ		NT	NT
78		キク	カワラニンジン	NT		
79			カセンソウ		EN	
80			ウラギク	EN	国リスト	NT
81			オナモミ	EX	CR	VU
82	マツムシソウ	ガマズミ	ハクサンボク		VU	
計	26目	41科	82種	26種	54種	44種

注)1:本表は、調査地域及びその周辺の分布が「名古屋市版レッドリスト 2020」または「レッドデータブックあいち 2020」のいずれかで報告されている種を抽出したものである。「名古屋市版レッドリスト 2020」または「レッドデータブックあいち 2020」の一方のみの分布情報であっても、レッドリストのカテゴリー区分は、両者及び環境省のものを表示した。

2:目・科・和名及び記載順は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（2020年11月）」の表記によった。ただし、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（2020年11月）」に記載がない種の日・科・和名については、「レッドデータブックあいち 2020（2020年3月）」または「名古屋市版レッドリスト 2020」の表記によった。

3:重要な種の区分は、以下のとおり。

- ・EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅡA類 EN:絶滅危惧ⅡB類
VU:絶滅危惧ⅡC類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
- ・国リスト（愛知県 2020）：環境省レッドリストに掲載されているが、愛知県において重要種の要件に該当しない種
- ・国リスト、県リスト（名古屋市 2020）：環境省レッドリスト（2020）または愛知県レッドリスト（2020）に記載されているが、名古屋市において重要種の要件に該当しない種

出典：「レッドデータブックあいち 2020」（愛知県，令和 2 年 3 月）

「名古屋市版レッドリスト 2020」（名古屋市，令和 2 年 3 月）

「名古屋市版レッドリスト 2015」（名古屋市，平成 27 年 3 月）

「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省，令和 2 年 11 月）

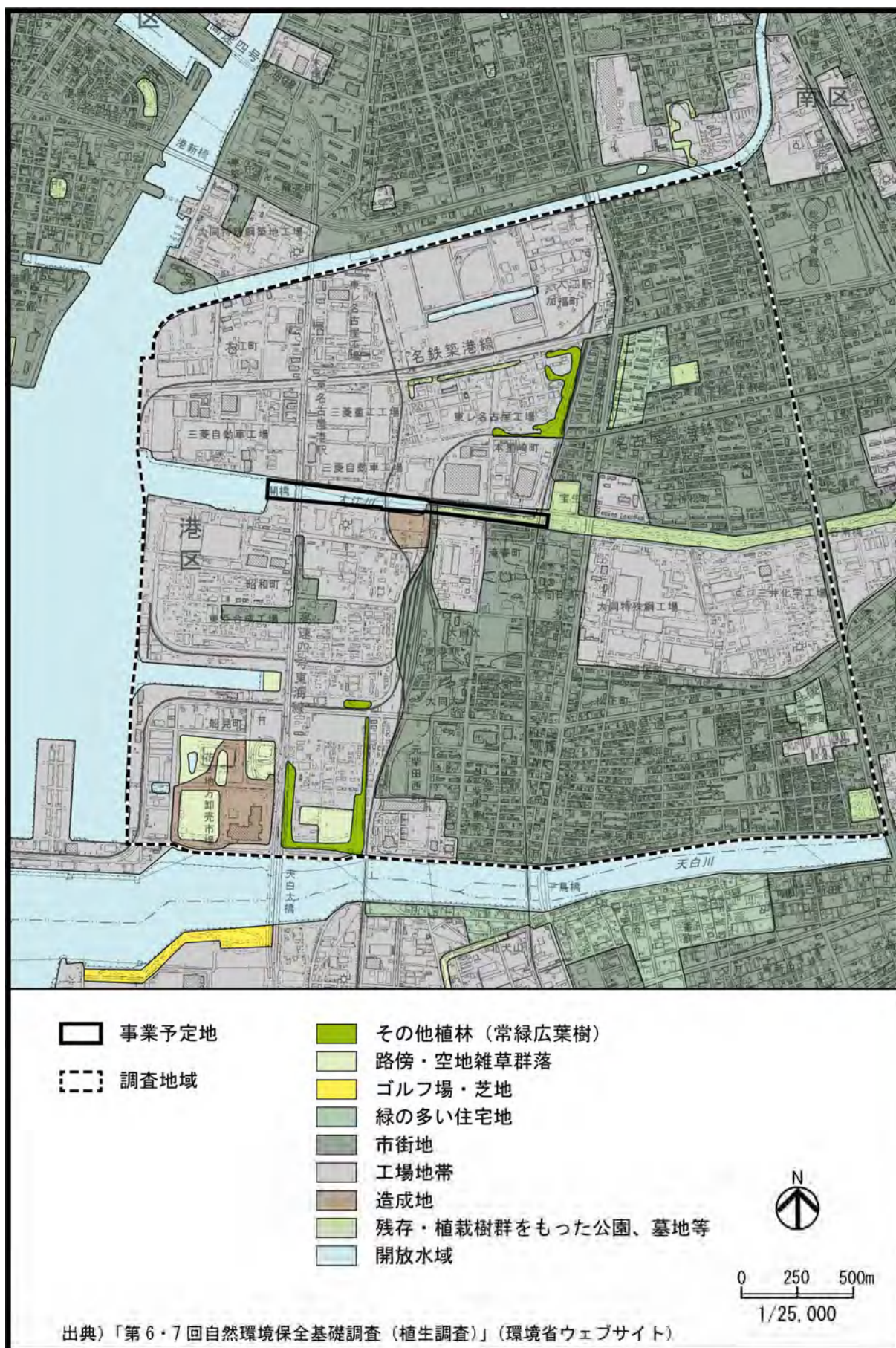


図 2-10-2 現存植生図

イ 現地調査

(7) 調査事項

- ・ 陸生植物（植物相及び植生）
- ・ 水生植物（植物プランクトン、付着生物（植物））

(1) 調査方法

a 陸生植物

(a) 植物相

- ・ 目視観察調査

植物（種子植物・シダ植物）を対象に、調査地域内の環境を網羅できるように任意に踏査し、確認した種を全て記録した。現地で同定が困難な個体は、室内に持ち帰って同定を行った。重要種確認時には、位置及び個体数等の記録を行った。

(b) 植 生

- ・ 植物社会学的手法に基づく調査、現存植生図の作成

航空写真の判読及び植物相調査時の任意観察の情報から調査地域の植生や土地利用を区分し、現存植生の素図を作成した。現地調査では、植物社会学的手法に基づく調査（コドラート法）として、相観的な植物群落ごとに、それぞれの植物群落に適した大きさの方形枠を1～数箇所設定して、枠内の植物種の出現状況（被度・群度）、階層構造、優占種等を記録し、植物群落を区分した。また、素図の区分内容や区分境界等の確認補正を行って現存植生図を作成した。

b 水生植物

(a) 植物プランクトン

- ・ 採取調査

バンドーン型採水器を用いて、表層（海面下 0.5m）より採水を行い、採取した植物プランクトンをホルマリンで固定した後、生物顕微鏡を用いて種の同定、細胞数の計数を行った。

(b) 付着生物（植物）

- ・ 採取調査（コドラート法）

平均水面において 30cm×30cm のコドラート枠内に存在する生物を剥ぎ取り、採取した生物をホルマリンで固定した後、実体顕微鏡を用いて種の同定、個体数の計数、湿重量を測定した。

- ・ 目視観察調査（ベルトトランセクト法）

潮間帯に観察側線を設け、この側線の両側 1mの範囲について、そこに分布する生物群集を 50cm×50cm を 1 区画として、ベルトトランセクト法により付着生物（植物）の出現種、個体数または被度を記録した。

(ウ) 調査場所

a 陸生植物

(a) 植物相及び植生

調査場所は図 2-10-3 に示すとおりであり、大江川緑地、事業予定地内及び海側とした。

b 水生植物

(a) 植物プランクトン

調査地点は図 2-10-4 に示すとおりであり、事業予定地内① (No. 1)、事業予定地内② (No. 2)、海側 (No. 3)、海域 (No. 4) で各 1 地点、計 4 地点とした。

(b) 付着生物 (植物)

調査地点は図 2-10-4 に示すとおりであり、事業予定地内① (No. A)、事業予定地内② (No. B)、海側 (No. C)、海域 (No. D) で各 1 地点、計 4 地点とした。



図 2-10-3 陸生植物調査場所

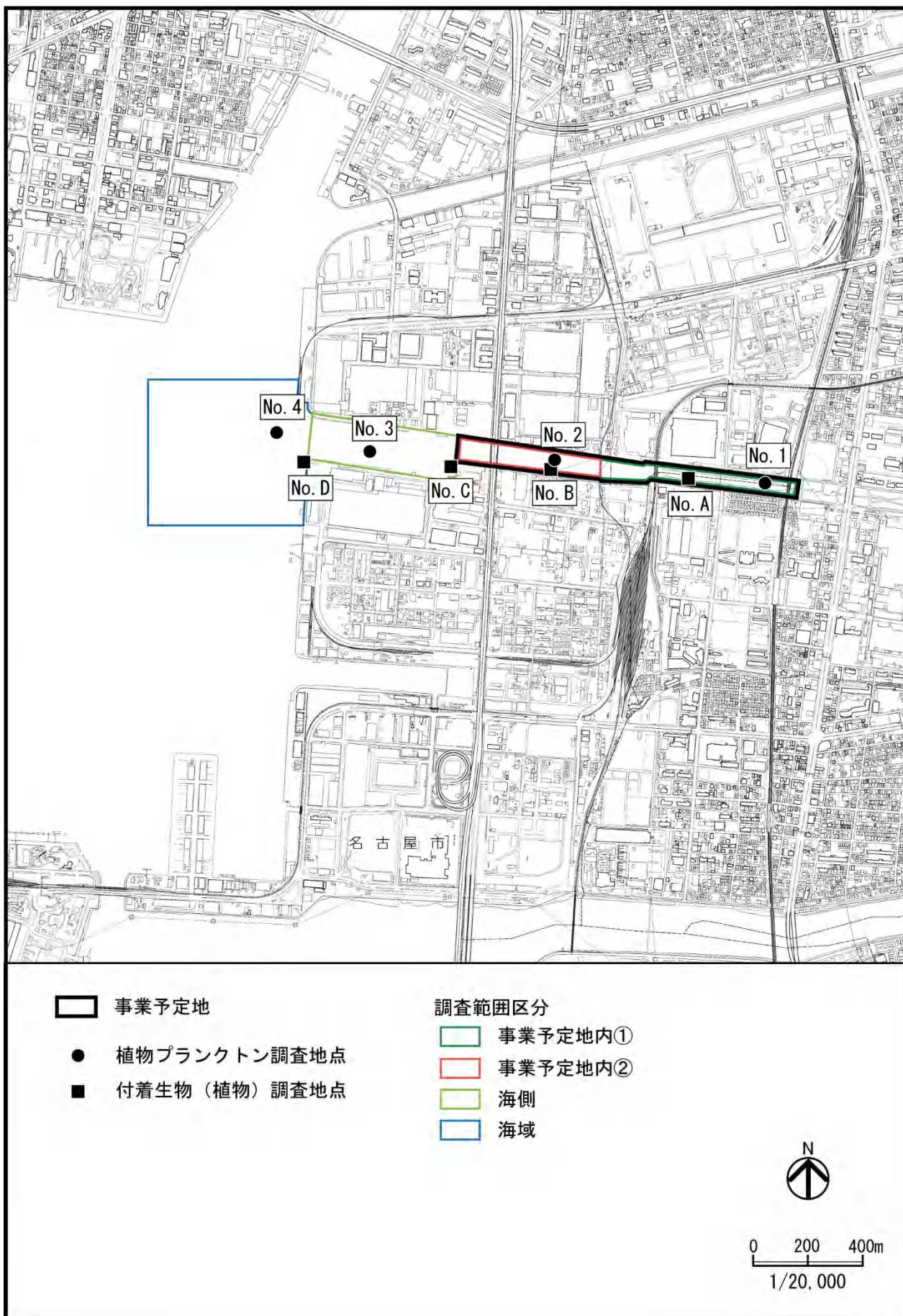


図 2-10-4 水生植物調査場所

(I) 調査期間

調査期間は、表 2-10-3 に示すとおりである。

表 2-10-3 調査期間

調査項目		調査時期	調査日
陸生植物	植物相	夏季	令和 2 年 7 月 13 日(月)、27 日(月)
		秋季	令和 2 年 10 月 1 日(木)
		春季	令和 3 年 4 月 22 日(木)～23 日(金)
	植生	秋季	令和 2 年 10 月 1 日(木)
水生植物	植物プランクトン	夏季	令和 2 年 8 月 24 日(月)
		秋季	令和 2 年 10 月 28 日(水)
		冬季	令和 3 年 1 月 25 日(月)
		春季	令和 3 年 4 月 22 日(木)
	付着生物(植物)	夏季	令和 2 年 8 月 25 日(火)
		秋季	令和 2 年 10 月 28 日(水)
		冬季	令和 3 年 1 月 26 日(火)
		春季	令和 3 年 4 月 23 日(金)

(オ) 調査結果

a 陸生植物

(a) 植物相

植物相の調査結果は、表 2-10-4 に示すとおりである。

現地調査では、68 科 230 種の植物が確認された。(調査結果の詳細は、資料 10-1 (資料編 p.172) 参照)

事業予定地の水辺環境では 152 種が確認され、低水敷にヨシ、ツルヨシ、セイバンモロコシ等のイネ科草本による草本群落が広がっていた。

大江川緑地の樹林環境では 145 種が確認され、イチョウ、カイヅカイブキ、クスノキ、タブノキ、ケヤキ、ムクノキ、シャリンバイ、マテバシイ、ウバメガシ等の植栽樹が広くみられた。

表 2-10-4 植物相調査結果 (生育環境別)

生育環境	確認種数	主な確認種
水辺環境 (事業予定地)	152 種 夏季：97 種 秋季：83 種 春季：75 種	ヨシ、ツルヨシ、セイバンモロコシ、イノモトソウ、コウキヤガラ、メリケンガヤツリ、ヤマアワ、オオクサキビ、アイアシ、セイバンモロコシ、ヤブカラシ、ナンキンハゼ、センダン、ヤノネボンテンカ、ホソバハマアカザ、ホコガタアカザ、アキノミチヤナギ、ウシオハナツメクサ、ツルナ、ホシアサガオ、ヒメムカシヨモギ、セイタカアワダチソウ、ヒロハホウキギク、マツバゼリ等
樹林環境 (大江川緑地)	145 種 夏季：88 種 秋季：79 種 春季：76 種	【植栽樹】 イチョウ、カイヅカイブキ、クスノキ、タブノキ、ケヤキ、ムクノキ、シャリンバイ、マテバシイ、ウバメガシ等 【草本】 ツユクサ、スズメノヤリ、ヤワラスゲ、ヒメクグ、カラスムギ、チガヤ、ネズミムギ、ヤハズエンドウ、オッタチカタバミ、コマツヨイグサ、オランダミミナグサ、ヘクソカズラ、オオイヌノフグリ、ヒメジョオン、ノゲシ、セイヨウタンポポ等

(b) 植 生

植物群落の確認状況は、表 2-10-5 に示すとおりである。

現地調査では、植物群落が 4 群落、人工構造物及び開放水面の合計 6 区分に大別された。

現存植生図は図 2-10-5 及び図 2-10-6、植生調査票は資料 10-2（資料編 p.176）に示すとおりである。

事業予定地内は、開放水面が多くを占め、上流側の水辺に単子葉草本群落のヨシ群落、ツルヨシ群落、セイバンモロコシ群落がみられた。

事業予定地より東側の大江川緑地では、植栽樹林群からなる植林地が成立していた。

表 2-10-5 植物群落調査結果

基本分類	群落名	調査場所		
		海側	事業予定地	大江川緑地
単子葉草本群落	ヨシ群落		○	
	ツルヨシ群落		○	
	セイバンモロコシ群落		○	
植林地	その他（植栽樹林群）			○
人工構造物			○	
開放水面		○	○	



図 2-10-5 現存植生図

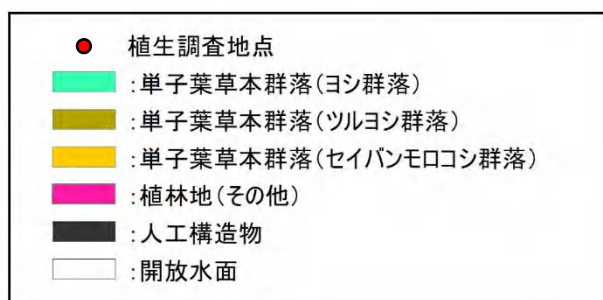
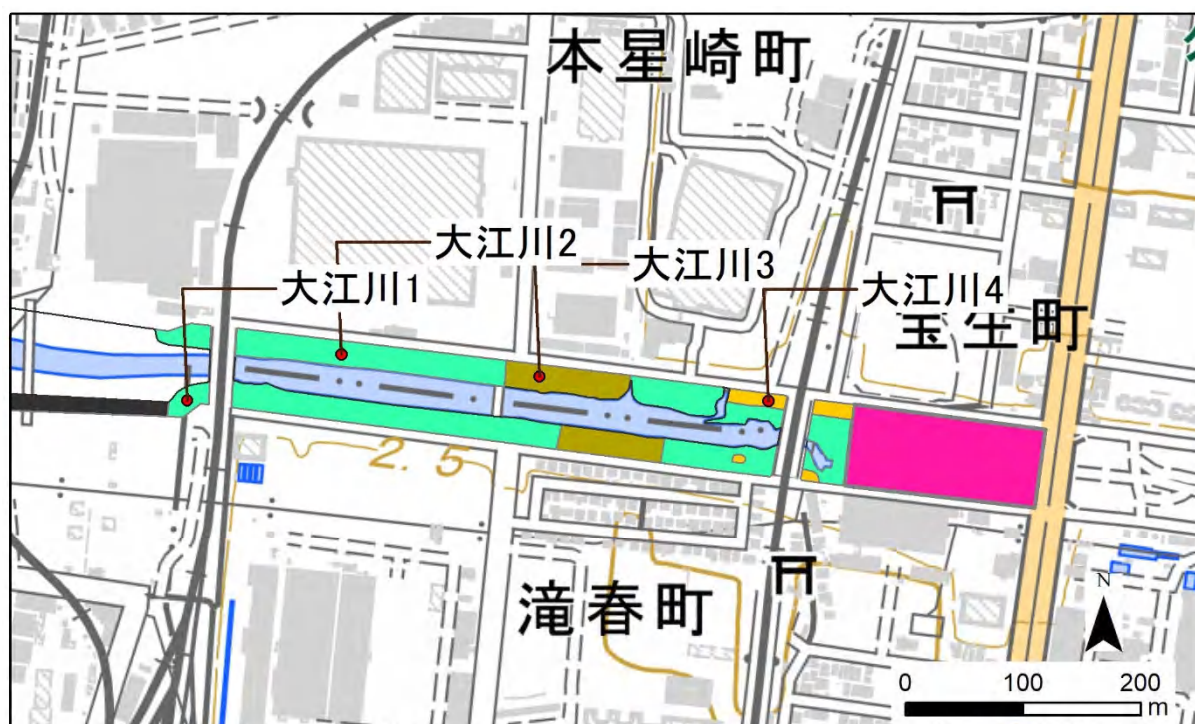


図 2-10-6 現存植生図（上流側拡大図）と植生調査地点

b 水生植物

(a) 植物プランクトン

植物プランクトンの調査結果は、表 2-10-6 に示すとおりである。

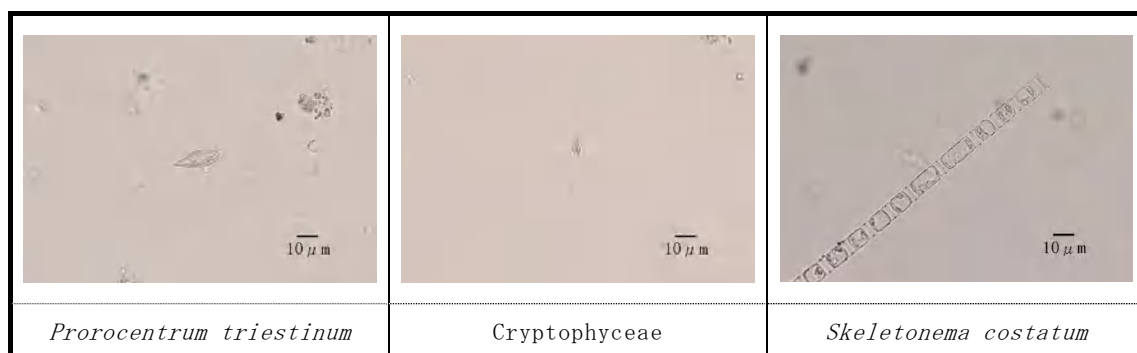
現地調査では、Cryptophyceae (クリプト藻)、*Prorocentrum triestinum* (渦鞭毛藻)、*Skeletonema costatum* (珪藻) など、63 種の植物プランクトンが確認された。

調査地点でみると、No. 1 は四季を通して 42 種、No. 2 は 39 種、No. 3 は 41 種、No. 4 は 38 種が確認され、地点間における確認種数は同程度であった。植物プランクトンの細胞数は夏季に多くなる傾向があり、細胞数の合計は No. 4 が最も多く、No. 1 が最も少なかった。

調査結果の詳細は、資料 10-3 (資料編 p. 178) に示すとおりである。

表 2-10-6 植物プランクトン調査結果

地点	No. 1 (事業予定地内①・東側)				No. 2 (事業予定地内②・西側)			
時期	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季
細胞数 (cell/mL)	894,300	355,200	398,700	477,600	1,620,000	994,200	373,800	291,000
	2,125,800				3,279,000			
種数	16 種	21 種	14 種	20 種	14 種	19 種	18 種	19 種
	42 種				39 種			
主な確認種 (優占種)	Thalassiosiraceae <i>Skeletonema costatum</i> <i>Prorocentrum triestinum</i>				<i>Skeletonema costatum</i> Thalassiosiraceae <i>Prorocentrum triestinum</i>			
地点	No. 3 (海側)				No. 4 (海域)			
時期	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季
細胞数 (cell/mL)	6,622,800	2,351,100	351,600	380,400	5,665,800	3,524,400	793,800	679,200
	9,705,900				10,663,200			
種数	13 種	21 種	17 種	26 種	16 種	17 種	22 種	24 種
	41 種				38 種			
主な確認種 (優占種)	<i>Chaetoceros</i> spp. Thalassiosiraceae <i>Skeletonema costatum</i>				<i>Skeletonema costatum</i> Thalassiosiraceae Cryptophyceae			



(b) 付着生物（植物）

① コドラート法

コドラート付着植物（植物）の調査結果は、表 2-10-7 に示すとおりである。

現地調査では、ヒトエグサ属、ホソアヤギヌ、藍藻綱など 5 種の付着生物（植物）が確認された。

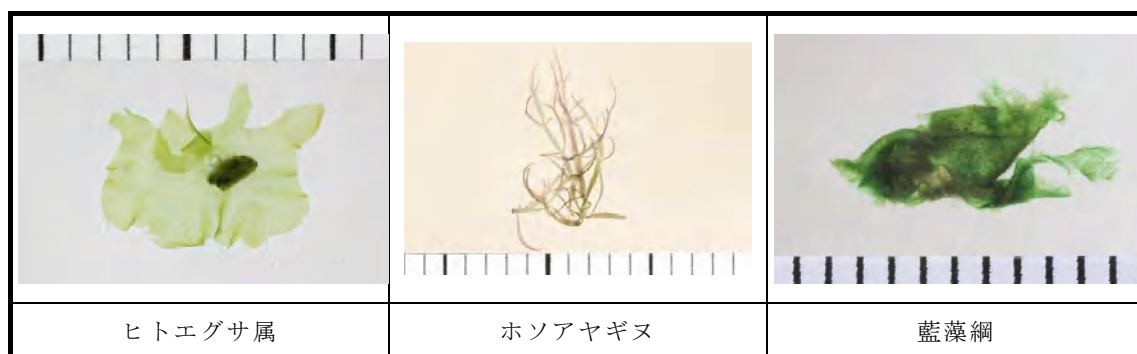
調査地点でみると、No. A は四季を通して 5 種、No. B は 5 種、No. C は 2 種、No. D は 3 種が確認され、No. A 及び No. B で最も多く、No. C が最も少なかった。湿重量は No. B が最も多く、No. C が最も少なかった。

付着植物（植物）では、重要な種は確認されなかった。調査結果の詳細は、資料 10-4（資料編 p. 182）に示すとおりである。

表 2-10-7 付着生物（植物）調査結果

地点	No. A（事業予定地内①・東側）				No. B（事業予定地内②・西側）			
時期	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季
湿重量 (g/0.09m ²)	0.00	0.02	0.05	0.13	18.72	4.23	1.38	0.02
	0.20				24.35			
種数	1 種	2 種	3 種	3 種	2 種	2 種	4 種	3 種
	5 種				5 種			
主な確認種	ホソアヤギヌ アオノリ属 藍藻綱 ヒメアオノリ属 ヒトエグサ属				ホソアヤギヌ 藍藻綱 ヒトエグサ属 ヒメアオノリ属			
地点	No. C（海側）				No. D（海域）			
時期	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季
湿重量 (g/0.09m ²)	0.02	0.00	0	0.03	0.04	0	0.14	0
	0.05				0.18			
種数	1 種	2 種	0 種	1 種	1 種	0 種	3 種	0 種
	2 種				3 種			
主な確認種	ホソアヤギヌ 藍藻綱				ホソアヤギヌ アオノリ属 藍藻綱			

注) 0.00 は 0.01g 未満を示す。



② ベルトトランセクト法

ベルトトランセクト法による付着生物（植物）の目視観察調査結果は表 2-10-8 に、確認状況は表 2-10-9 に示すとおりである。

目視観察では、ホソアヤギヌ、ヒメアオノリ属が確認された。

なお、No. C 及び No. D では付着生物（植物）は確認されなかった。

調査結果の詳細は、資料 10－5（資料編 p.183）に示すとおりである。

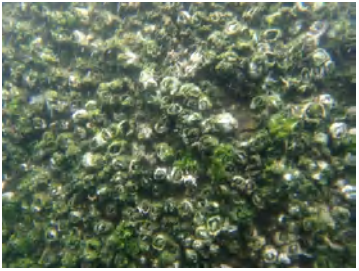
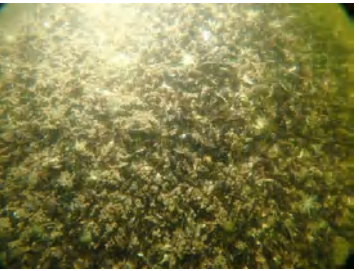
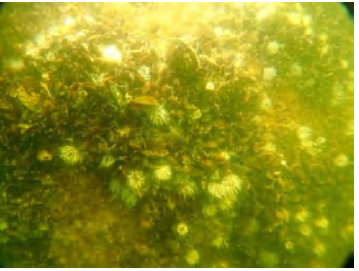
表 2-10-8(1) ベルトトランセクト法調査結果（No. A）

No.	種名	時期			
		夏季	秋季	冬季	春季
1	ホソアヤギヌ	○	○	○	○
2	ヒメアオノリ属				○

表 2-10-8(2) ベルトトランセクト法調査結果（No. B）

No.	種名	時期			
		夏季	秋季	冬季	春季
1	ホソアヤギヌ	○	○	○	○
2	ヒメアオノリ属				○

表 2-10-9 ベルトトランセクト法の確認状況

		
1 枠	2 枠	3 枠
No. A (事業予定地内①・東側)		
		
1 枠	2 枠	3 枠
No. B (事業予定地内②・西側)		
		
1 枠	2 枠	3 枠
No. C (海側)		
		
1 枠	2 枠	3 枠
No. D (海域)		

c 重要な種、重要な群落等

重要な種の選定基準は表 2-10-10 に、重要な群落等の選定基準は表 2-10-11 に示すとおりである。

表 2-10-10 重要な種の選定基準

No.	略称	重要な種の選定基準と区分
①	天然記念物	「文化財保護法」（昭和25年5月30日法律第214号）に基づく天然記念物及び特別天然記念物 (区分) 特天：特別天然記念物 県：愛知県指定 天：天然記念物 市：名古屋市指定
②	種の保存法	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日法律第75号）に基づく国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種及び緊急指定種 (区分) 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種 国際：国際希少野生動植物種
③	環境省RL	「環境省レッドリスト2020」（環境省、令和2年3月）の選定種 (区分) EX：絶滅（我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。） EW：野生絶滅（飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種。） CR：絶滅危惧IA類（絶滅の危機に瀕している種で、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。） EN：絶滅危惧IB類（絶滅の危機に瀕している種で、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。） VU：絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種。） NT：準絶滅危惧（現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。） DD：情報不足（評価するだけの情報が不足している種。） LP：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。）
④	環境省 海洋生物RL	「環境省海洋生物レッドリスト2017」（環境省、平成29年3月）の選定種 (区分) EX：絶滅（我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。） EW：野生絶滅（飼育・栽培下でのみ存続している種。） CR：絶滅危惧IA類（ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。） EN：絶滅危惧IB類（IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。） VU：絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種。） NT：準絶滅危惧（現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。） DD：情報不足（評価するだけの情報が不足している種。） LP：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。）
⑤	愛知県RL	「レッドリストあいち2020」（愛知県、令和2年3月）の選定種 (区分) EX・EW：絶滅・野生絶滅（愛知県ではすでに絶滅したと考えられる種。野生では絶滅し、飼育・栽培下でのみ存続している種。） CR：絶滅危惧IA類（絶滅の危機に瀕している種で、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。） EN：絶滅危惧IB類（絶滅の危機に瀕している種で、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。） VU：絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種。） NT：準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種。） DD：情報不足（「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」のいずれかに該当する可能性が高いが、評価するだけの情報が不足している種。） LP：地域個体群（その種の国内における生息状況に鑑み、愛知県において特に保全のための配慮が必要と考えられる特徴的な個体群。）
⑥	愛知県指定種	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」（昭和48年3月30日条例第3号）に基づく指定希少野生動植物種の指定種
⑦	名古屋市RL	「名古屋市版レッドリスト2020」（名古屋市、令和2年7月）の選定種 (区分) EX・EW：絶滅・野生絶滅（名古屋市ではすでに絶滅したと考えられる種。野生では絶滅し、栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種。） CR：絶滅危惧IA類（絶滅の危機に瀕している種で、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。） EN：絶滅危惧IB類（絶滅の危機に瀕している種で、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。） VU：絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種。） NT：準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種。） DD：情報不足（評価するだけの情報が不足している種。）

表 2-10-11 重要な群落等の選定基準

No.	選定基準
①	「植物群落レッドデータ・ブック」（財団法人日本自然保護協会・財団法人世界自然保護基金日本委員会，平成 8 年）の選定群落
②	「第 2 回自然環境保全基礎調査」（環境庁，昭和 57 年）、「第 3 回自然環境保全基礎調査」（環境庁，平成元年）、「第 5 回自然環境保全基礎調査」（環境庁，平成 12 年）における特定植物群落

(a) 陸生植物

① 植物相

植物の確認種のうち、重要な種の調査結果は表 2-10-12 に、特徴及び現地確認状況は表 2-10-13 に、確認位置は図 2-10-7 に示すとおりである。

陸生植物の重要な種は、イセウキヤガラ、アキノミチヤナギ、ホソバハマアカザの 3 種が確認された。

表 2-10-12 重要な種調査結果（植物）

No.	種名	海側	事業 予定地	大江川 緑地	選定基準						
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	イセウキヤガラ		1 箇所								EN
2	アキノミチヤナギ		51 個体								VU
3	ホソバハマアカザ		7 箇所								NT
計	3 種	0 種	3 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	3 種

注)1:種名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省，令和 2 年）に原則従った。

2:選定基準は、前掲表 2-10-10 に対応する。

表 2-10-13(1) 重要な種の特徴及び現地確認状況

種名	イセウキヤガラ（イネ目カヤツリグサ科）
選定基準と区分	名古屋市RL：絶滅危惧IB類
形態	多年生の水草。地下茎は細く地中をはい、先端に塊茎をつける。茎は通常単生で直立し、高さ40～60cmになる。葉は茎の下部に2～4個付き、長い葉は茎と同じ高さまで伸び、断面は鋭三角形。花期は6～8月で、小穂は茎の先端に通常1個、ときに2～3個つき、無柄で卵形～卵状楕円形の褐色、先端は尖る。 
分布の概要	北海道、本州、四国、九州に分布する。愛知県内では三河湾、衣浦湾、伊勢湾の奥部に流入する河川の河口部に生育し、尾張では名古屋市のほか、大府東浦、津島海部西、海部南部で確認されている。名古屋市内では中川区（下之一色町新川）、港区（宝神町庄内川河口）、船見町天白川河口に生育している。
生育地の環境／生態的特性	塩水の出入りする河口部の、満潮時には水没するような場所に生育する抽水～湿性植物。
現在の生育状況／減少の要因	庄内川、新川、天白川の河口部に生育している。生育地は限られているが、生育状態は良好である。
現地調査での確認状況	事業予定地で春季に1群落（5×5 m ² ）が確認された。

出典）「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや 2015 植物編」
（名古屋市，平成 27 年 4 月）

表 2-10-13(2) 重要な種の特徴及び現地確認状況

種名	アキノミチヤナギ（ナデシコ目タデ科）
選定基準と区分	名古屋市RL：絶滅危惧Ⅱ類
形態	1年生の草本。茎は通常斜上し、分枝して、高さ80cmに達する。葉はほとんど無柄、葉身は披針形または長楕円形、先端は鋭形または鈍形である。花期は9～10月で花がつく部分はまばらな穂状花序のようになり、各節に2～3個の花をつける。花被は長さ1.5～3mm、そう果は3稜形である。 
分布の概要	北海道、本州、四国、九州に分布する。愛知県内では沿海地には点在しており、名古屋市のほか豊橋南部、田原東部、田原西部、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、海部南部で確認されている。名古屋市内では南区（滝春町大江川）に生育している。港区側にもある。庄内川河口部にも生育していそうだが、確実な資料はまだ得られていない。
生育地の環境／生態的特性	海岸の塩湿地周辺部に生育する。
現在の生育状況／減少の要因	ヨシ群落の間に点々と生育している。南区加福町の貯木場跡地にあったものは、名古屋市の一般廃棄物最終処分場造成工事のため埋め立てられて絶滅した。
現地調査での確認状況	事業予定地で秋季に51個体が確認された。

出典）「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや 2015 植物編」
（名古屋市，平成 27 年 4 月）

表 2-10-13(3) 重要な種の特徴及び現地確認状況

種名	ホソバハマアカザ（ナデシコ目ヒユ科）
選定基準と区分	名古屋市RL：準絶滅危惧
形態	1年生の草本。茎は直立して硬く、枝を分け、高さ40～70cmになる。葉は長さ4～12mmの柄があり、葉身は披針形～線状披針形、質は厚く、辺縁は通常全縁である。花期は10月で花は茎や枝の先端部に多数集まってつき、長さ1.5～6cmの穂状花序をつくる。 
分布の概要	北海道、本州、四国、九州に分布する。愛知県内では名古屋市のほか、豊橋南部、田原西部、刈谷知立、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、大府東浦、半田武豊、常滑、美浜南知多、海部南部などに生育している。名古屋市内では港区（野跡庄内川河川敷）、南区（加福町一丁目）に生育している。
生育地の環境／生態的特性	塩湿地性の植物であるが、埋立地の浜状の場所、護岸のすき間など、やや自然度の低い場所にも生育している。
現在の生育状況／減少の要因	港区では庄内川と日光川の河口部に生育している。南区では加福町にある。南区加福町の貯木場跡地では埋め立てられてなくなったが、周辺部の川沿いに残存している。本種は他の塩湿地性植物に比べれば二次的に形成された場所にも生育するが、名古屋市ではそのような場所さえも減少傾向が著しい。
現地調査での確認状況	事業予定地で夏季に20個体、秋季に6個体と1群落（2×5 m ² ）、春季に1個体と1群落（0.2×3 m ² ）が確認された。

出典）「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや 2015 植物編」（名古屋市，平成 27 年 4 月）

② 植 生

現地調査で、重要な群落等は確認されなかった。

(b) 水生植物

現地調査で、植物プランクトン及び付着生物（植物）に関する重要な種は確認されなかった。

(カ) まとめ

現地調査においては、陸生植物が 230 種、植物プランクトンが 63 種、付着生物（植物）が 5 種確認された。

重要な種は、陸生植物で 3 種（イセウキヤガラ、アキノミチヤナギ、ホソバハマアカザ）が確認された。

重要な群落、重要な水生植物は確認されなかった。

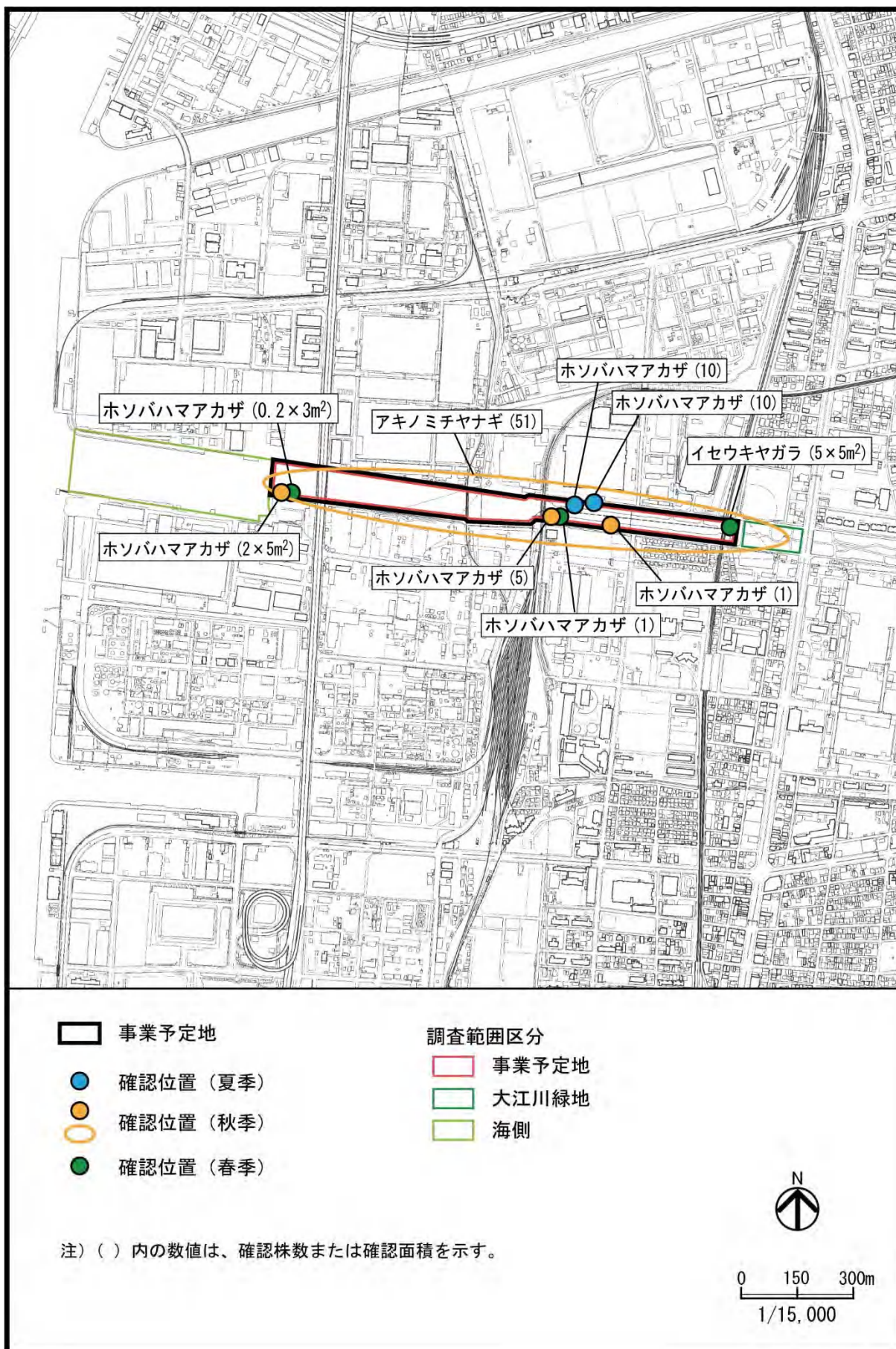


図 2-10-7 重要な種の確認位置（植物）

(3) 予 測

ア 予測事項

水面の埋立てによる陸生植物及び水生植物への影響とし、具体的には以下に示す項目について検討を行った。

- ・ 重要な陸生植物種及び群落への影響
- ・ 重要な水生植物種及び群落への影響

イ 予測対象時期

工事期間中

ウ 予測場所

事業予定地及び事業予定地周辺

エ 予測方法

埋立ての工事計画と、重要な陸生植物種及び群落、重要な水生植物種及び群落の位置関係を把握した。そして、重要な種及び群落の消失の程度、埋立て等に伴う影響等について、現地確認内容や一般的な生態、既存の科学的知見等から、その影響の程度を定性的に予測した。

オ 予測条件

(7) 工事計画

埋立区域、工事予定期間、工事施工手順等の工事計画は、第1部 第2章「対象事業の名称、目的及び内容」 2-4「工事実施計画の概要」(p. 15～27) に示すとおりである。

本工事では、埋立てにより、大江川の河床に封じ込められている汚染土の地震・津波時の露出・拡散を防止する計画である。

事業予定地は、左岸より順次埋立てを行う計画である。大江川は、河道内仮締切により川幅を狭め、最終的にはボックス（暗渠）へ切り替えるため、水辺環境は次第に消失していく。

工事期間中の予測は、事業予定地の水辺環境が消失した段階を基本とした。

カ 予測結果

(7) 重要な陸生植物種及び群落への影響

a イセウキヤガラ（陸生植物）

本種は、塩水の出入りする河口部で、満潮時には水没するような場所に生育する抽水～湿性植物である。事業予定地周辺の庄内川、新川、天白川の河口部に生育している情報がある。

現地調査では、事業予定地内の1箇所、1群落（5×5 m²）が確認された。

水面の埋立てにより、本種の確認地点及び生育環境が消失するため、事業による影響はあると予測される。しかしながら、本種は周辺に複数の生育情報があり、大江川での確認個体数も少ないと考えられることから、名古屋港湾における地域個体群に及ぼす影響は小さいものと予測される。

b アキノミチヤナギ（陸生植物）

本種は、海岸の塩湿地周辺部に生育する。事業予定地周辺には広く散在している情報がある。

現地調査では、事業予定地内で51個体が確認された。

水面の埋立てにより、本種の確認地点及び生育環境が消失するため、事業による影響はあると予測される。しかしながら、本種は周辺に複数の生育情報があり、大江川での確認個体数も少ないと考えられることから、名古屋港湾における地域個体群に及ぼす影響は小さいものと予測される。

c ホソバハマアカザ（陸生植物）

本種は、塩湿地性の植物であるが、埋立地の浜状の場所、護岸のすき間など、やや自然度の低い場所にも生育している。事業予定地周辺の港区では庄内川と日光川の河口部、南区では加福町に生育している情報がある。

現地調査では、事業予定地内の7箇所、27個体と2群落（2×5 m²、0.2×3 m²）が確認された。

水面の埋立てにより、本種の確認地点及び生育環境が消失するため、事業による影響はあると予測される。しかしながら、本種は周辺に複数の生育情報があり、大江川での確認個体数も少ないと考えられることから、名古屋港湾における地域個体群に及ぼす影響は小さいものと予測される。

d 重要な群落

事業予定地及び事業予定地周辺に重要な群落はみられなかったことから、水面の埋立てによる影響はないものと予測される。

(4) 重要な水生植物種及び群落への影響

事業予定地及び事業予定地周辺に重要な水生植物及び群落はみられなかったことから、水面の埋立てによる影響はないものと予測される。

(4) 評 価

予測結果によると、工事による水面の埋立てにより植物の生育環境が消失するため事業による影響はあるが、周辺に生育情報があることから、水面の埋立てによる植物への影響は小さいと判断する。

10-2 存在時

(1) 概 要

埋立地の存在による水生植物への影響について検討を行った。

(2) 調 査

既存資料による調査及び現地調査については、10-1「工事中」に示すとおりである。
(10-1(2)「調査」(p.325)参照)

(3) 予 測

ア 予測事項

埋立地の存在による水生植物への影響とし、具体的には以下に示す項目について検討を行った。

- ・重要な水生植物種への影響

イ 予測対象時期

埋立地の存在時

ウ 予測場所

事業予定地周辺

エ 予測方法

事業計画、埋立地及び防潮壁の存在による影響等について、重要な水生植物種の現地確認内容や一般的な生態、水質・底質及び流況の予測結果、既存の科学的知見等から、その影響の程度を定性的に予測した。

オ 予測条件

(7) 事業計画

埋立て後の想定土地利用計画は、第1部 第2章「対象事業の名称、目的及び内容」2-4「工事実施計画の概要」(第1部 第2章 2-4 (8) ウ「埋立て後の想定土地利用計画」(p.27)参照)に示すとおりであり、休憩施設や広場、植栽帯等を設けた緑地が計画されている(詳細未定)。

また、事業予定地より海側は現状のまま水域が維持されるが、海域との境界(南北の既設護岸)に沿って防潮壁が設置される計画がある。防潮壁設置後は大江川に海水が入らなくなるため、基本的には、干満差がなくなり汽水環境から淡水環境に変化する。

存在時の予測は、事業予定地の埋立てが完了して緑地が創出され、海側の水域が淡水化した段階を基本とした。

(イ) 水質・底質・水象の予測結果

水質・底質・水象の予測結果は、第5章「水質・底質」5-2「存在時」（第5章 5-2 (3) オ「予測結果」（p. 245～272）参照）に示すとおりである。

カ 予測結果

事業予定地及び事業予定地周辺に重要な水生植物はみられなかったことから、埋立地の存在による影響はないものと予測される。

(4) 評 価

予測結果によると、工事による水面の埋立てにより植物の生育環境は消失するが、事業予定地及び事業予定地周辺に重要な水生植物種はみられなかったことから、埋立地の存在による水生植物種への影響は回避されるものと判断する。